

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	宜野湾市児童発達支援事業所 愛育園			
○保護者評価実施期間	令和7年3月6日		～	令和7年4月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41名	(回答者数)	32名
○従業者評価実施期間	令和7年4月16日		～	令和7年4月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月16日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子で通うことで、子どもが安心して活動に参加できる。	保護者がいるという安心した環境の中で子どもの興味・関心に合わせた対応をし、他者との共有や他者とかかかわる楽しさを体験していけるよう保育を行っている。	・家族を巻き込んだ行事の充実。
2	保育の中で保護者と子どもの様子を共有することができる。	・遊びの場を通して、子どもの行動の意図を汲み取る対応を保護者と一緒にし、情緒の安定や愛着の育ち、発達を促している。また、保護者が子どもの個性や特性を見つめたり、安心して子育てができるようサポートしている。 ・保護者のリラックスタイムや保護者同士の交流の機会を設けている。	引き続き保護者と子どもの様子を共有しながら保育を行い、他の親子との関係づくりや発達・子育て等の勉強会を行う。
3	保育士、作業療法士、言語聴覚士、心理士など、さまざまな専門職が在籍しています。	それぞれの立場からの意見交換や情報共有を密にしている。保護者との面談。また、専門士による個別評価など。	異職種参加での定期的なケース会議の開催。
4	本事業所では、法人にて行政や自治会等と関りが強いので、行政イベントや地域行事開催の情報を得ることができる。	行政や自治会からのイベントや地域行事を掲示しながら保護者にお知らせする事ができている。	今後、保護者LINE等も活用して、行政や地域行事等の情報を提供して、地域行事に親子で参加出来るよう支援したい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	併行利用している児童が通う保育園・幼稚園との情報共有ができていない。	普段の保育やモニタリング会議などで保護者から園での様子を聞いていたが、園の先生方との間で、子どもの情報を共有・連携する仕組みが整っていない。	保育園・幼稚園と連携するための仕組みを整え、情報共有できるよう取り組む。
2	地域交流ができていない。	何度か地域の児童館との交流を試みたが、駐車場の確保や保育時間の兼ね合いで継続することが難しかった。	近隣保育園と年間行事計画を照らし合わせながら、交流出来るような行事などを検討していく。また、園庭開放の要望なども検討していく。